

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	80人	算数	80人	理科	80人
第5学年	国語	69人	算数	69人	理科	69人

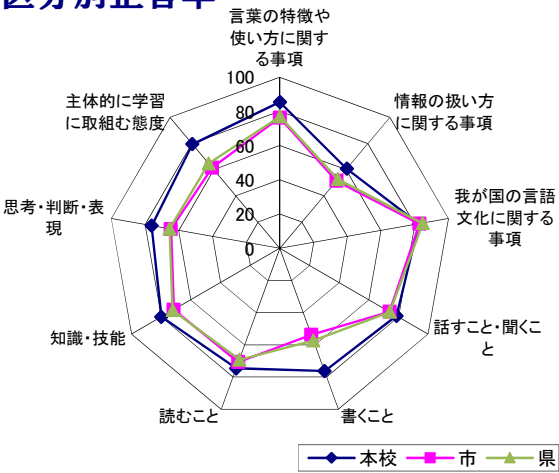
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	85.5	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	60.8	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	82.5	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	78.8	74.1	74.2
	書くこと	76.3	53.7	57.2
観点	読むこと	74.6	70.7	69.2
	知識・技能	80.0	71.6	72.3
	思考・判断・表現	76.1	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	79.5	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

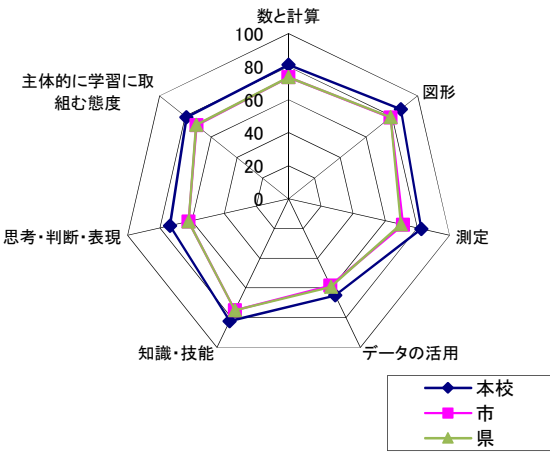
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の正答率は、県や市の平均を上回っている。 ○様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにする設問では、県の平均正答率を3.8ポイント上回っている。 ●漢字を書く問題では、どの設問も県の平均正答率を上回っているものの、「庭」と答える設問の無回答率が7.5%であった。	・校内漢字検定を活用し、漢字の学習意欲を高め、さらに習得を図る。 ・朝の学習や宿題などで、既習漢字を定期的に復習するようにするなど、漢字の学習をする機会を増やし、慣れ親しむようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○「情報の扱い方にに関する事項」の正答率は、県や市の平均を上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問では、県の平均正答率を8ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確に記述する設問では、県の平均正答率を10.5ポイント上回るものの、正答率は低い。	・この問題では、調べて分かった情報を基にして、前文章の書き方に合わせて文章を書く力が求められている。今後は国語の学習の中で、いくつかの情報から必要な内容を選び出し、条件に沿って文章を書く学習に力を入れるように努める。
我が国の言語文化に関する事項	●「我が国の言語文化に関する事項」の正答率は、県や市の平均正答率を下回っている。 ●漢字のへんやつくりに関する設問では、県の平均正答率を2.2ポイント下回っている。	・漢字辞典で部首索引を使って漢字を集めたり調べたりする活動を折に触れ取り入れ、漢字がへんやつくりなどから構成されていることに興味をもちながら学習できるよう、指導を行う。
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っているものと下回っているものがある。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問では、県の平均正答率を9.5ポイント上回っている。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら記述する設問では、県の平均正答率を2.4ポイント下回っていた。また、無解答率が1.3%であった。	・話し合いの内容を聞き取る活動では、話し手が伝えたいことの中心を捉えながらメモを取ることができるよう指導を行う。 ・話し手の意見に賛成か反対かを考え、理由を挙げながら聞き手に伝わる話し方ができるよう指導を行う。
書くこと	○「書くこと」の正答率は、県や市の平均正答率を大きく上回っている。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く設問では、県の平均正答率を36ポイントと大きく上回っている。 ●調べたことをまとめた文章の書き方について考える設問では、県の平均正答率を2.1ポイント上回るものの、正答率が低い。	・書くことの指導において、収集した資料を効果的に使い、設定した相手や目的に応じて、書く材料の収集の仕方やまとめ方を工夫し、中心となる内容を明確に記述できるよう、指導を行う。 ・理由や事例を挙げたり、適切な順序や言葉遣いに気を付けたりして書くよう、指導を行う。 ・段落構成や文字数を指定するなど、条件を設定して書く活動を取り入れるようにする。
読むこと	○「読むこと」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○物語の登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える設問では、県の平均正答率を7.5ポイント上回っている。 ●説明文の内容を読み取る問題では、どの設問も県の平均正答率を上回っているが、段落の内容を捉える設問の平均正答率は50%と低い。	・物語文では、叙述を基に場面の様子や登場人物の気持ちを、目的や必要に応じて読み取ることができるよう、更に指導を重ねる。 ・説明文では、指示語や接続語、文末表現などに注意し、文と文との意味のつながりを理解させたり、中心となる言葉に着目させたりして、内容を捉えるような学習活動を行うようにする。

宇都宮市立城東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.1	73.5	73.6
	図形	87.1	79.0	79.1
	測定	82.5	71.1	69.8
	データの活用	65.0	58.4	59.2
観点	知識・技能	82.3	75.0	75.0
	思考・判断・表現	73.8	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	79.1	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

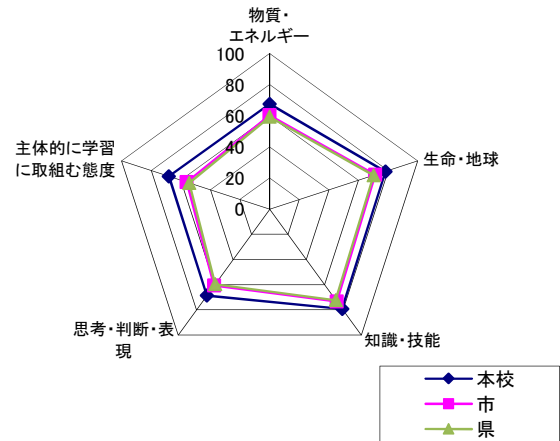
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「数と計算」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○数の相対的な大きさを問う問題や余りを切り上げて処理し、その理由を説明する記述式の問題では、県の平均正答率を17.2ポイント上回っている。 ○整数－小数第一位の計算の問題では、県の平均正答率を32ポイントと大きく上回っている。他5問の計算問題でも、県の平均正答率を上回っている。 ●3けた＋4けた＝4けた(繰り上がり3回)の計算の問題では、県の平均正答率を5.1ポイント下回っている。 ●かけ算の筆算に出てくる数の意味を問う問題では、県の平均正答率を7.2ポイント下回っており、正答率も31.3ポイントと低い。	・乗法(2けた×2けたの筆算)において、分解した計算の意味を筆算の手順と結び付けて捉えさせ、筆算の過程の数の大きさや位を理解できるよう繰り返し指導し、定着を図る。 ・朝の学習や計算検定などを通して、計算の習熟を図り、個に応じた指導をするとともに、一人一人の計算技能の向上に努める。
図形	○「図形」の正答率は、すべての項目について、県や市の平均正答率を上回っている。 ○正三角形を作図する問題では、県の平均正答率を9.7ポイント上回っており、正答率も97.5%と高い。 ○球の半径から球が1つ入った箱の辺の長さを求める問題では、県の平均正答率を8.1ポイント上回っている。	・図形の学習では、実際に図や模型、道具を使った体験的な活動を通して理解を深められるよう、教材・教具の工夫に努める。また、作図の学習を多く取り入れ繰り返し行うことで、作図の仕方、定規やコンパスの使い方などの習熟を図る。
測定	○「測定」の正答率は、すべての項目について県や市の平均正答率を上回っている。 ○ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める問題では、県の平均正答率を14.6ポイント、道のりの意味の理解では、4.4ポイント平均を上回っている。 ●重さの単位変換に関する問題では、県の平均正答率を21.3ポイント上回っているものの、正答率は低い。	・長さや重さの単位変換については、k(キロ)がつくと元の単位の大きさの1000倍であることを、ものの大きさや長さを実際に体験的に読む機会を設けることで実感させ、理解を深める。
データの活用	○「データの活用」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○棒グラフの1目盛り大きさに着目して、間違いを記述する問題では、県の平均正答率を7.0ポイント上回っている。 ●棒グラフの読み取りに関する問題では、県の平均正答率を3.4ポイント上回っているものの、正答率は低い。	・様々な項目のグラフを読む練習を繰り返し、必要な情報を正確に選び、出題されている文章との整合性を判断できるような学習を取り入れる。 ・算数の授業だけでなく、社会や理科などの他教科と関連させたり、日常生活の中で表やグラフを使う機会を増やしたりしていく。

宇都宮市立城東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.5	60.2	59.2
	生命・地球	78.2	71.3	70.3
観点	知識・技能	79.2	73.4	72.3
	思考・判断・表現	68.6	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	68.0	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「物質・エネルギー」の正答率は、県や市の平均正答率を7～8ポイント上回っている。問題の内容別に見ると、多くにおいて県や市の平均正答率を上回っている。 ○「物の重さ」については、全問(実験結果の推測、実験結果の考察、実験結果から推測し説明すること)において、県の平均正答率を8～18ポイント上回っている。 ●「電気の通り道」については、回路を理解し、豆電球の明かりのつき方を推測する問題で、県の平均正答率を2.8ポイント下回っている。 ●「磁石の性質」については、磁石につく物とつかない物を理解しているという問題で、県の平均正答率を4.2ポイント下回っている。 ●「物の重さ」については、平均正答率は上回っているが、無回答の児童も見られた。	・既習内容や児童の生活経験を基に、予想や仮説をもたせて観察、実験を行い、実感を伴った理解ができるようにする。 ・基礎的な観察・実験の器具の操作について、きめ細かい指導を行う。 ・学習した内容を基に、さらに発展的な考察ができるように、基礎的な知識について細やかな指導を行い、既習の内容の定着を図るようにする。
生命・地球	○「生命・地球」の正答率は、県や市の平均正答率を8ポイント以上上回っている。問題の内容別に見ても、すべてにおいて県の平均正答率を上回っている。 ○「身近な自然の観察」「こん虫の育ち方」の設問では、3問中2問が、県の平均正答率を10ポイント以上上回っている。 ●「太陽と地面のようす」については、正午にできる影の方位の理解と、太陽の動き方から影の位置を推測する設問において、県の平均正答率を上回っているものの、正答率は低い。	・観察、実験の意図や目的を考えさせ、主体的に取り組ませるようにする。 ・学習した内容を正しく理解できるように、観察、実験の結果から考察したことなどを全体でしっかりと共有するようにする。

宇都宮市立城東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家庭での学習」に関する質問では、「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合と、「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をしている」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強している」に肯定的回答をした児童の割合が、市の平均を上回った。本校児童が、宿題だけでなく自主学習にも進んで取り組んでいることがうかがえる。

○「学ぶ意欲」に関する質問では、「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」「学習して身に付けたことは、しょう来的な仕事や生活の中で役に立つと思う」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を上回った。本校の児童が、知的好奇心や向上心をもって、意欲的に学習に取り組んでいることがうかがえる。

○「学校での様子」に関する質問では、「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスの決まりなどを決めていと思う」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を大きく上回った。このことから、本校児童が友達と話し合う活動を大切にしながら、進んで学習や学級活動に取り組もうとしていることがうかがえる。

○「自分自身のこと」に関する質問では、「自分の良さを人のために生かしたいと思う」「自分がもっている能力を十分に発揮したい」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を上回った。このことから、本校児童が、集団の中で自分の力を発揮して生かしていこうとする気持ちがうかがえる。

○「社会のこと」に関する質問では、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均をやや上回った。児童が、社会の動きに興味をもっていることがうかがえる。

●「家庭での学習」に関する質問では、「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を下回った。家庭学習の内容について、予習やテストの復習に取り組むよう指導していきたい。

●「学ぶ意欲」に関する質問では、「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を大きく下回った。難しい問題について、様々なやり方、考え方を学級全体で学び合っ共有できるような授業づくりをしたり、友達や教師に質問しながらでも最後まで取り組めるよう指導したりする。

●「学校での様子」に関する質問では、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を下回った。授業中、皆の前で進んで発表することに苦手意識が見える。間違えてもよいので安心して発表できる雰囲気をつくっていき、学び合い高め合うことのよさを実感させたい。

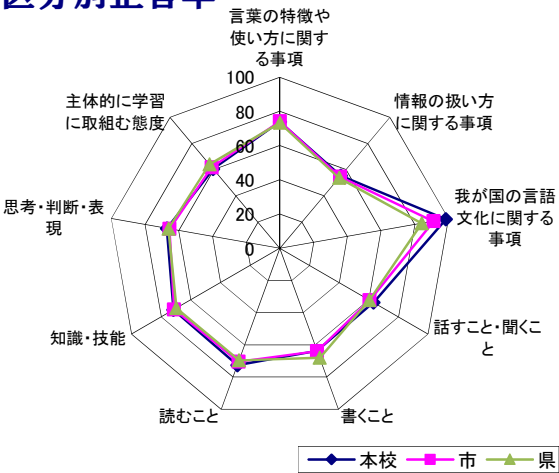
●「自分自身のこと」に関する質問では、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」「自分の行動や発言に自信をもっている」「時間を上手に使うことを心がけている」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を下回った。難しいことに対してあきらめず、工夫したり自分に自信をもったりして取り組むよう、道徳科や学級活動等を通して支援したい。また、時間の使い方については、学校や家庭での学習や生活における時間の計画の仕方等を指導したい。

●「家族のこと」に関する質問では、「家でのかまりや約束を守っている」「家の人と学校での出来事について話をしている」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を下回った。学校や家でのかまりや約束を守ることの大切さを指導したい。また、学校での出来事や学習、生活について、家の人に話すきっかけづくりをしたい。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.0	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	55.4	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	98.5	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	63.2	60.6	60.4
	書くこと	63.6	63.8	68.0
	読むこと	72.5	70.4	69.6
観点	知識・技能	71.7	71.3	69.9
	思考・判断・表現	67.1	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	60.6	61.9	64.0



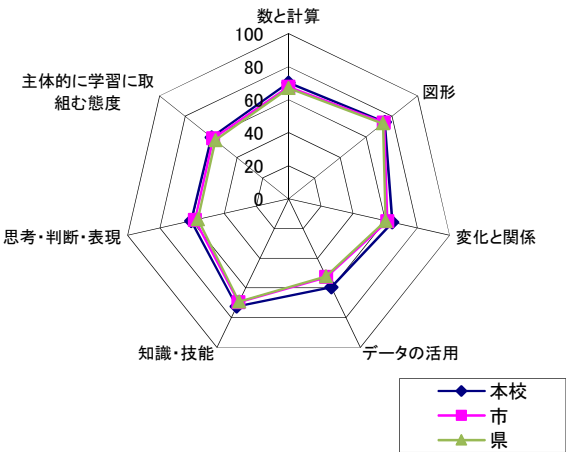
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の平均正答率は、市の平均正答率と同等である。 ○連用修飾語の問題では、正答率が高く、県の平均正答率を12.4ポイント上回っている。 ●性格を表す語句の問題では、正答率が低く、県の平均正答率を6.7ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・性格を表す語句について、積極的に授業で取り上げ、辞書やタブレットで自分で調べる活動を多く取り入れていく。 ・漢字の学習において、正しく読むことや、文章の中でどのように使われるかを意識しながら学習することで定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	○「情報の扱い方にに関する事項」の平均正答率は、市の平均正答率をやや上回っている。 ○段落相互の関係を捉える問題では、正答率が高く、県の平均正答率を5.5ポイント上回っている。 ●理由や事例などを挙げながら説明する問題では、県の平均正答率と比べて、やや低い。	・今後も、説明文指導において、段落相互の関係を意識できる指導を心掛けていく。 ・自分の考えを述べる時に、理由や事例などを挙げて説明する場を多く設ける。
我が国の言語文化に関する事項	○「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率は、県や市の平均正答率を大きく上回っている。 ○ことわざの問題では、正答率が高く、県の平均正答率を14.3ポイント上回っている。	・今後も、ことわざを授業で積極的に取り上げ、言語文化に関する知識の向上を図る。
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○話し手の伝えたいことを捉えて自分の考えをもつ問題では、正答率が高く、県の平均正答率を6.9ポイント上回っている。 ●司会として意見の相違点に着目して、まとめる問題では、県の平均正答率を1.2ポイント下回っている。	・今後も、自分の考えをもち、他者に話す活動を取り入れ、話すこと・聞くことの向上を図る。 ・話合いの進め方や司会の役割については、国語の学習で定着させるようにする。それを生かして、学級活動などにおいて、出された意見の要点を捉えながら話し合う場を設定するとともに、共通点や相違点をメモするよう、指導していく。
書くこと	●「書くこと」の平均正答率は、市の平均正答率と同等であるが、県の平均正答率を下回っている。 ●指定された長さで文章を書く問題では、県の平均正答率を9.1ポイント下回っている。	・文章を書くときは、資料から分かることを的確に表現したり、自分の考えをより詳しく説明したりすることができるように指導する。 ・興味をもって調べたことをもとに、内容を整理し、伝えたいことをどのようにまとめていくか考えながら文章を書くように指導する。学んだことを生かして、総合的な学習の時間など、他教科においても書く活動を多く取り入れる。
読むこと	○「読むこと」の平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○文章を読んで感じたことなどを共有する問題では、県の平均正答率と比べて10.6ポイント上回っている。 ●叙述を基に登場人物の気持ちを考える問題では、県の平均正答率を5.1ポイント下回っている。	・説明文を読む際、キーワードとなる語や段落と段落のつながりを意識させながら読むよう指導する。 ・物語文では、登場人物の気持ちを想像しながら読むよう指導し、文章をもとにして特徴的な描写を捉えられるようにする。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.3	67.8	67.0
	図形	74.4	73.9	73.1
	変化と関係	64.5	61.4	60.2
	データの活用	59.6	52.7	52.1
観点	知識・技能	72.5	69.7	69.2
	思考・判断・表現	60.5	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	59.7	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

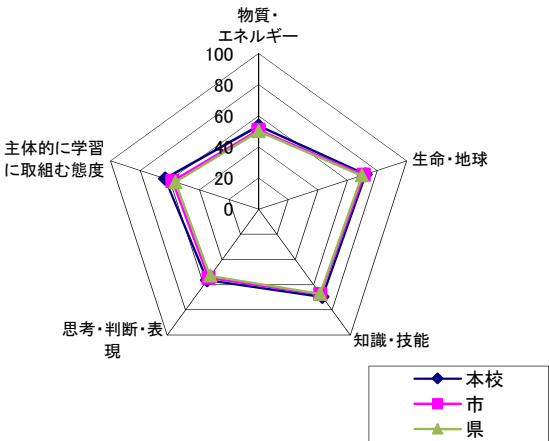
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「数と計算」の正答率は、県を3.3ポイント、市を2.5ポイント上回っている。 ○小数や分数の計算、四則計算は概ねよく定着している。 ●小数の仕組みについての理解の問題では、県の平均正答率から4.5ポイント下回っている。	・本校独自の計算検定(年間10回)を活用して、計算技能の定着に努める。 ・小数の仕組みや、概数の意味や表し方の理解を深められるようにそれぞれの数字が何の位を表すか、きちんと確認したり、四捨五入や「以上」「以下」「未満」などの言葉を使って数を表したり、およその数を見積もる練習をしたりする機会を多く取り入れる。
図形	○「図形」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○長方形の面積を求める問題では、正答率が95%を超えており、県の平均正答率を3.1ポイント上回っている。 ●ひし形の作図の問題では、県の平均正答率を10.2ポイント下回っている。	・図形について既習の基礎的・基本的な知識・技能を確認しながら指導し、プリントやドリルで繰り返しの学習を行い、学習内容のさらなる定着を図る。 ・図形の作図の仕方をデジタル教科書や実物投影機などを用いて視覚で捉えさせ、理解できるようにする。その後、児童の理解の度合いに応じて練習機会を設けるなどして、指導の充実に努める。
変化と関係	○「変化と関係」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○数量の関係を割合を使って説明する問題では、県の平均正答率を8.7ポイント上回っている。 ●基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ問題では、県の平均正答率を7.8ポイント下回っている。	・式は立てることができても、その式と図を関連付けることに課題があるので、図を利用して式を立てる練習を繰り返し行うことで理解を深め活用できるようにする。 ・表や文章から変わり方を読み取ったり、数量の関係を割合を使って説明したりする問題を考える場を多く設け、数量関係の変化の読み取りや計算への理解を深める。
データの活用	○「データの活用」の正答率は、すべての項目において、県や市の平均正答率と同等もしくは上回っている。 ○二つの観点をまとめた表の読み取りは、県の平均正答率を17.1ポイント上回っており、示されている課題を分類整理した上で、読み取っている。 ●折れ線グラフの読み取りに関する問題のグラフの変化を読み取る場面では、県の平均正答率を2ポイント下回っている。	・折れ線グラフや棒グラフなどの特徴を捉え、正確に読み取ったり、その根拠を明確にして考え、説明する活動を取り入れることで、分類整理の考え方や資料の特徴や傾向を正しく捉える力を伸ばす。 ・日常生活や他教科での学習を通して、様々なグラフや表に触れたり、表やグラフを使う機会を増やしたりしていく。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.5	50.8	50.0
	生命・地球	72.2	71.1	69.8
観点	知識・技能	69.7	67.6	67.2
	思考・判断・表現	56.3	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	63.2	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「物質・エネルギー」領域の正答率は、県や市の平均正答率を約3ポイント上回っている。 ○「物のあたたまり方」の設問は、すべて県平均を5～10ポイント上回り、定着度合が高いと言える。 ●「水を冷やしたときの温度変化のグラフを理解している」については、県平均を6.3ポイント下回った。 ●「乾電池の向きによって電流の向きが変わり、電流の向きは検流計の針の振れ方でわかる」については、県平均と同等だが平均正答率が19.1%と低く、課題が見られた。 ●「電車の冷房と暖房の吹き出し口の位置が異なる理由を空気のあたたまり方をもとに考えて説明する」は、無解答率が22.1%で、文章で解答する問題に苦手意識をもつ児童が多い。	・教師の演示や、人数を絞って回数を分けて行わせるなど、方法を工夫して確実に観察、実験を行い、実感を伴った理解ができるようにする。 ・事象提示や発問などを工夫して、既習の内容、生活経験を関係付けてノートに考えを書くなど、根拠のある予想をさせる。児童が「見方・考え方」を働かせることで、問題解決の力の育成につなげていく。 ・問題解決の過程において、意見交換したり、観察、実験の役割分担をしたりするなど協働して行う機会を大切に、他者と関わりながら問題解決しようとする態度を育む。
生命・地球	○「生命・地球」領域の正答率は、県や市の平均と同等で、わずかながら上回っている。 ○「1年間の動物の様子」「1年間の植物の成長」は、県平均を5ポイント以上上回っている。 ●「水たまりがなくなる理由を指摘する」は、正答率が75%ではあるが、県平均より6.3ポイント低い。	・児童が既にもっている自然についての素朴な見方や考え方を少しずつ科学的なものに変容させていくため、実験の意図や学習の目的を児童に伝え、主体的に取り組むことができるようにする。 ・例えば、「昆虫はあたま・むね・はらの3つの部分に分けられ、足が6本ある」という共通事項をおさえた上で、その学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめてみようとする学習の質的な高まりや深まりを促す働きかけを行う。

宇都宮市立城東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家庭での学習」の質問では、「家で、学校の授業の予習をしている」と「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。自主学習を進んで行おうとしている児童が多いことが分かる。

○「学ぶ意欲」に関する質問では、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」に肯定的回答をしている児童が、県や市の平均を大きく上回っている。タブレットを使った学習に意欲的に取り組んでいる児童の姿がうかがえる。

○「学校での様子」の質問では、「毎日の生活がじゅう実していると感じる」「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。クラスの中での自分の居場所があり、みんなで協力して生活していると感じていることの表れである。

○「家での生活」の質問では、「毎日朝食を食べている」「早寝、早起きを心がけている」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。規則正しく健康的な生活が送れている児童の姿がうかがえる。

○「自分自身のこと」の質問では、「自分は勉強がよくできる方だと思う」「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」「自分にはよいところがあると思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。学習や運動などでがんばったことを通して、自己肯定感が高まっていることがうかがえる。

○「家族のこと」の項目では、すべての項目で肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。家の人と学習や将来のことを話し合ったり、頑張ったことを認められたりして、大切にされていると感じている様子がうかがえる。

○「教科の学習のこと」の質問では、どの教科も将来役に立つと前向きにとらえ、必要性を感じながら学習に臨んでいる姿がうかがえる結果となっていた。

●「家庭での学習」の項目のうち、「家で学校の授業の復習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を下回っていた。家庭学習での復習の大切さについて確認し、しっかりと復習をしたうえで予習をするように指導していくことが必要である。

●「学校での様子」に関する質問のうち「先生は学習のことについてほめてくれる」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を下回っていた。授業中の教師の称賛や声掛けにより、児童一人一人が、自分のできたことに自信をもって学習を進めていけるようにすることが必要である。

宇都宮市立城東小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、「校内漢字・計算検定」を年間10回実施したり、市のステップアップシート(ミヤリーテスト)を活用したりして、基礎基本の定着に努めている。また、朝の学習(パワーアップタイム)を各学級ごとに計画的に実施し、プリントやドリル学習を行っている。	国語では、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率は、ほぼ県や市と同等であるが上回っているが、漢字の書きについての設問では、無回答率が高いものがある。また、4年のローマ字についての設問や、5年の性格を表す語句についての設問で、正答率が低く、課題が見られる。 算数では、「数と計算」の基本的な内容の設問において、正答率が高いものの、4年の繰り上がりのあるたし算やかけ算の筆算に出てくる数の意味についての設問、5年の小数のしくみの理解についての設問において正答率が低く、課題が見られる。
ノート指導の充実	校内ノートコンクールを年2回実施している。低・中・高学年、それぞれの発達段階に応じて明確な目標を設定し、学校全体で分かりやすいノートづくりの指導を行っている。自分や友達の考えをノートにまとめる時のきまりやマークを校内で統一している。模範となるノートを展示し、同学年、他学年のノートを見ることで、児童がよりよいノートづくりを意識できるようにしている。	国語の「書くこと」の領域では、県の平均正答率を4年は19.1ポイント上回っているが、5年は4.4ポイント下回っている。質問紙で「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」と回答した児童の肯定割合が、4年では県平均より1.4ポイント上回っているが、5年では県平均より12.9ポイント、下回っている。
児童が学ぶ楽しさを味わい、進んで考える授業づくり・学びの「城東スタイル」	学校課題「学ぶ楽しさを味わい、進んで考え参画する子供の育成～よりよい集団活動を通して、なりたい自分をつくる『城東スタイル』の構築～」を昨年度から継続し、児童が学ぶ楽しさを感じながら思考力・判断力・表現力を発揮して主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確にし、見通しをもって自ら課題に取り組んだり友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	本校では、どの教科も、「思考・判断・表現」の観点において、県や市の平均正答率を上回っている。また、「主体的に学習に取り組む態度」の観点の正答率は、ほぼ県や市と同等であるが上回っている。 質問紙では、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定割合が、4、5年とも県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4年国語の、調べたことをまとめた文章の書き方について答える選択式の設問では、県平均を上回っているものの、正答率が40%を下回った。 5年国語の、アンケート調査の結果を読み取り、それをもとにして自分の考えを指定された長さで書く記述式の設問では、県平均を9.1ポイント下回った。 5年算数では、基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ設問では、正答率が県平均を7.8ポイント下回り、60%程度であった。 4年理科では、容量の大きい飲料の容器にプラスチックが使用されている理由を説明する記述式の設問では、県の平均は上回っているものの、正答率30%を下回った。	自分の考えを図や文章で表現し、他者に分かりやすく伝える力の育成。	各教科等でめあてやねらいを明確にし、児童が自分の考えを表現したり、互いに考えを伝え合う活動が充実したりするような授業づくりを目指す。また、授業のまとめや振り返りにおいて、学習したことを考えさせ、目的を意識した文章を書くように指導していく。